

令和 6 年度 年間指導計画及び具体的な評価の方法	2 年 社会科（歴史的分野）	観点別学習状況 評価の観点	観点番号
		知識・技能	1
		思考・判断・表現	2
		主体的に学習に取り組む態度	3

月	指導事項区分		配 当 時 間	指導内容 主な評価規準	観 点 番 号	具体的な評価の方法
	単元	節				
4 月	武家政権の成長 と東アジア	人々の結び付きが強 まる社会	5	《指導内容》 - 室町時代には農業生産力の向上に伴い手工業が発達してさまざまな職業が登場し、流通の発達が促されたことを理解できる。 - 自助救済の社会の中で、共同体が強固になり、民衆たちが独自の行動を起こすようになったことを理解しつつ、村や都市の共同体が、政治権力の干渉を排除するほどに結び付きを強めた理由を考えることができる。 - 応仁の乱の背景を考察し、戦国大名によって領国支配が確立されていったことを理解できる。 - 室町時代には、武家と公家の文化が融合し、日本的な美意識や生活様式を持つ文化が形成され、現代につながっていることを理解できる。 《評価規準》 ① 農業など諸産業の発達、都市や農村における自治的なしくみの成立、多様な文化の形成、応仁の乱後の社会の変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 ② 室町時代に農業や商工業が発達した理由や、民衆の成長が社会に与えた影響を、生産力の高まりと交通の発達に着目しつつ、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察している。 ③ 民衆の成長と新たな文化の形成について、よりよい社会の実現に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	① ② ③	①社会科における基礎的・基本的な知識・技能が定着しているかを、評価する。 (単元テスト、振り返りシート)
5 月		大航海によって結び 付く世界	3	《指導内容》 - イスラム文化の影響を受け、近代ヨーロッパ世界が形成されたことを理解し、ルネサンスと宗教改革が起こった背景とその影響を考察できる。 - ヨーロッパの人々が、新航路の開拓を行った目的を理解し、貿易が世界的に盛んになり、世界の一体化が始まったことを考察できる。 - 南蛮貿易の特色を理解し、鉄砲の伝来が日本の社会に与えた影響を理解できる。 《評価規準》 ① ローマ教皇の権威の衰えが近代ヨーロッパ世界の形成を促したこと、新航路の開拓とヨーロッパの人々の進出により世界の一体化が始まったことを理解している。 ② 植民地化や貿易の活発化、先住民の酷使やアフリカからの奴隷の連行に着目して、ヨーロッパの人々の進出が、アフリカやアメリカ、アジアに与えた影響を考察する。 ③ 鉄砲を複製し大量生産した日本の技術や、キリスト教伝来の際の人々の姿勢や考えについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を追究しようとしている。		②社会的事象に対して、自分の考え方をまとめ、表現できるかを評価する。 (単元テスト、振り返りシート、グループ活動)
6 月			3	《指導内容》 - 信長、秀吉の統一事業により、中世社会の勢力が力を失い、近世社会の到来が促されたことを理解できる。 - 秀吉の対外政策の特色を、海外貿易の許容とキリスト教の禁止との矛盾、文禄、慶長の役の失敗から考察できる。 - 南蛮貿易によって、西洋の文化がもたらされるとともに、庶民の間にも芸能や娯楽が広まっていたことを理解できる。 《評価規準》 ① 信長、秀吉による統一事業とその当時の対外関係、戦国大名や豪商などの生活、文化の特色などの知識を基に、中世社会の荘園制の崩壊と仏教勢力の衰退により、近世社会の基礎がつくられたことを理解する。 ② 統一政権の諸政策が中世社会から近世社会への変化を導き、日本の政治や文化に与えた影響を考察するとともに、海外貿易の許容とキリスト教の禁止という相反する政策に気付かせ、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的、多角的に考察し、表現している。 ③ 安土桃山時代に育まれた歌舞伎や茶の湯などの日本の伝統文化が、現代社会に受け継がれてきたことの意義について、主体的に追究しようとしている。		③社会的事象に対して、主体的に追究しようとしている。 (レポート、振り返りシート、自己評価)
7 月 8 月	武家政権の展開 と世界の動き	武士による全国支配 の完成	4	《指導内容》 - 江戸幕府が開かれた経緯と幕藩体制のしくみを理解し、江戸幕府が長く続いた理由を考察できる。 - 江戸幕府が大名や豪商などに朱印船を与えて積極的に貿易を推進していたところから、統制に変化した理由をキリスト教との関わりから考察できる。 - 幕府は、長崎、対馬、薩摩、松前の 4 つの窓口を通して外との交易を行っていたことを理解できる。 - 琉球王国は薩摩藩の支配を受けながら、一方で中国に朝貢し貿易を行っていたことを理解したうえで、アイヌの人々が松前藩と対立した理由を考察できる。 《評価規準》 ① 江戸幕府の成立から、大名の配置と武家諸法度の制定、参勤交代などによる大名の統制を基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解してい		

9月		天下泰平の世の中	4	る。 ② 江戸幕府が貿易の統制を強化した理由を、キリスト教の禁止と貿易の独占という視点から考察している。 ③ 独自の文化や交易の特色を持つ琉球王国とアイヌの人々の社会が、江戸時代にどのように変化したかに着目し、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 《指導内容》 - 江戸時代の人口構成の特色と身分制のしくみを理解し、幕藩体制の確立後、幕府が文治政治へ転換し、朱子学を重視した理由を考えることができる。 - 江戸時代には、新田開発や農具の発達、肥料の工夫などにより米の収穫量が増えたことを理解し、各地で商品作物の栽培や特産物の生産が盛んになり、国内産業が発達したことを理解できる。 - 江戸時代には、五街道や西廻り航路・東廻り航路などの交通網が整備され、都市や産業にどのような影響を与えたかを考えることができる。 - 文学や装飾画などの多彩な分野で、上方を中心に町人文化が栄えたことを理解できる。 《評価規準》 ① 兵農分離がさらに進み身分制が確立するなか、産業や交通が発達し、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活が生まれたことを理解している。 ② 諸産業が発達した理由や、上方の町人を中心に元禄文化が広がった理由を、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察している。 ③ 江戸時代の交通・金融・小売業などの発達や、この時代に定着した行事や生活習慣が現代社会とつながっていることについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究している。		
10月		社会の変化と幕府の対応	4	《指導内容》 - 徳川吉宗の享保の改革の特色を理解するとともに、米を中心とする財政改革を理解し、農民の間に格差が生まれた理由を、商品作物と貨幣経済の広まりに着目して考えることができる。 - 田沼意次は貨幣経済の発達に対応した政治を目指したことを理解し、それに挫折した背景を考察できる。 - 寛政の改革は、農業を重視した従来型の政策であったことを理解できる。 - 文化・文政期、江戸を中心に多彩で娯楽性に富んだ町人文化が栄えたことを理解し、国学や蘭学などの新しい学問や教育の広がりが社会に与えた影響について考察できる。 《評価規準》 ① 商品作物と貨幣経済の広まりに伴う、経済格差の発生と民衆の動き、幕府の改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治がしだいに行き詰まりを見せたことを理解している。 ② 幕府が繰り返し改革を行わなければならなかった理由と、江戸の庶民を中心とする文化が栄えた理由について、貨幣経済の広まりと幕府政治の行き詰まりとの関わりに着目して考察し、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察している。 ③ 新しい学問の発達や教育機関の広がりが近代の教育の土台となったことに気付き、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
11月	近代国家の歩みと国際社会	欧米諸国における「近代化」	5	《指導内容》 - イギリスでは市民革命を通じて立憲君主制と議会政治が確立されたことを理解し、その意義を考えることができる。 - アメリカ独立戦争が起こった背景を理解し、独立宣言が出された意義を考えることができる。 - フランスの人々が主権と基本的人権を獲得していく経緯を、フランス革命を通して理解できる。 - 産業革命が起こった背景と社会の変化を理解し、現代社会との関わりが深いことに気付き、社会主義の考えが唱えられた理由を、資本主義の問題点から考えることができる。 - アメリカ合衆国の領土拡大の経緯と、南北戦争が起こった背景を理解し、ドイツとロシアの近代化の特色を理解する。 - 産業革命後、欧米諸国は原料と市場を求めて世界へ進出していったことを理解し、アジア・アフリカの政治や経済に与えた影響を考えることができる。 《評価規準》 ① 市民革命と産業革命を経た欧米諸国の世界進出、社会主義の登場や背景や植民地への影響を理解している。 ② 工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、近代化により欧米諸国の政治や社会がどのように変化したか考察する。 ③ ③欧米諸国における近代化と市民社会の成立について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
12月 1月		開国と幕府の終わり	4	《指導内容》 - 外国船の来航に対する幕府の対応が、異国船打払令から薪水給与令に変化した理由を理解できる。 - アヘン戦争が起こった理由を理解し、アヘン戦争が清や日本に与えた影響を考察できる。 - 大塩平八郎の乱や天保の改革の失敗を通じて、幕府政治が動揺して衰退していくことを理解できる。 - 黒船来航の背景を理解し、日米和親条約と日米修好通商条約が結ばれたことの意味を理解できる。 - 大政奉還により江戸幕府が滅亡し、王政復古の大号令により天皇を中心とする新政府の成立が宣言されたことを理解できる。 《評価規準》		

2月 3月		明治政府による「近代化」の始まり	3	① 欧米諸国のアジア進出に対する清の動きと、日本の開国と貿易の拡大による政治的・経済的・社会的な影響を理解できる。 ② 工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の東アジアへの進出が日本の政治や社会に与えた影響を考察している。 ③ 欧米諸国における「近代化」の進展と東アジア諸国の動きについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 《指導内容》 - 五箇条の御誓文から、新しい政治の方針を読み取り、どのような改革が行われた理解し、新政府の改革が何を目指して行われたのかを考察できる。 - 官営工場の設立や通信・交通の近代化、徴兵令、地租改正など、富国強兵を目指してさまざまな政策が行われたことを理解し、それが社会や人々に与えた影響を考察できる。 「文明開化」が進み、欧米の文化や生活様式が広まり、教育の近代化が進められたことを理解できる。 《評価規準》 ① 富国強兵や殖産興業の政策、文明開化の風潮などをもとに、明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ② 明治政府の諸改革の目的に着目して、諸改革が社会や人々の生活に与えた影響について、また、近世の政治や社会との違いに着目して、近世から近代への転換の様子について考察している。 ③ 明治維新と近代国家の形成について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
----------	--	------------------	---	---	--	--